

地域レベルの会議における主な議論のまとめ

(地域の課題および市の課題)

- ・(1)地域で起きている問題と課題は、0～14のテーマに分類し、地域包括ケア推進会議と地域個別ケア会議で話し合われた内容をそれぞれ記載した。
- ・(2)地域での対応方針は、地域包括ケア推進会議で挙げられたものを内容に応じて「実態把握」、「普及啓発」、「連携強化」、「取組検討」の4つに分け、さらに取組状況として「すでに取組んでいる」、「取組やすい」、「時間がかかる」の3つに分けて記載した。
- ・(3)市レベルの課題は地域包括ケア推進会議と地域個別ケア会議で挙げられたものをそれぞれ記載した。

テーマ	(1) 地域で起きている問題と課題		(2) 地域での対応方針	(3) 市レベルの課題		
	推進会議	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議※		推進会議	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議※	
0. 新興感染症 (新型コロナウイルス感染症)	<p>○コロナ禍での閉じこもり等による健康二次被害(フレイル・認知症の進行)の予防対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会参加の場・活動の場が減少したことにより、閉じこもりから、フレイルや心身の機能低下が進んでいる。(新松戸・五香松飛台) ・感染予防のため、自主活動やサービスを中断し、機能低下に陥る人への対策が必要。(常盤平・六実六高台) ・コロナ禍で認知症に関する相談が増加している(前年比2倍)。コロナ禍でも可能な「認知症予防」活動についての検討や普及啓発が必要。(五香松飛台) <p>○社会的孤立を予防、解消する新たな繋がりや生活様式の検討推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動が自粛となり、地域での繋がりが希薄化し、孤立している人がいる。新たな交流・参加ができる環境の整備が必要。(明1・常盤平) ・オンラインで他者と繋がったりセルフケアができるようなシステム作りが必要。(常盤平) ・高齢者がオンラインを活用したコミュニケーションを身近に感じて、扱うことができる方法の検討が必要。(常盤平団地・六実六高台) ・ワクチン接種の予約等、高齢者にITの使用法についての支援が必要。(新松戸) ・密を避けた交流やケアの場、新しい生活様式に即した活動の多様化への対応が必要。(常盤平) 	<ul style="list-style-type: none"> ・発熱があっても、コロナが否定された場合に宿泊できる施設や在宅サービスの準備や入院先の確保。(個 27) ・支援者の感染予防が出来る体制や環境整備と支援機関でクラスターが発生時の事業継続計画の策定。(個 30) ・濃厚接触者のサービス中止中の安否確認。(個 30) ・コロナ感染を恐れて交流を控えている高齢者が多い。オンラインで状況把握出来るシステムがあると良い。(自 15) 	実態把握	<p>○取組やすい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動教室や啓発活動の際に参加者にインターネットの利用状況を確認する。 		<p>○時間がかかる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインで状況把握ができるシステムの構築。
			普及啓発	<p>○すでに取り組んでいる・取組やすい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン以前に高齢者が困りごとを相談できる窓口(地域包括支援センター)の周知を促進する。 ・認知症予防の冊子(食事や運動について詳しく掲載)を作成配布する。 	<p>○取組やすい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン環境を整える為の制度がある旨の周知。 	
			取組検討	<p>○すでに取り組んでいる・取組やすい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話、手紙での確認等の見守りを継続する。 ・出張包括や出張体操教室、オンライン相談の実施。 ・各地区で体操や太極拳など密にならない屋外での取組みを行う。 ・スマホやオンラインに関する講習会を開催し、高齢者がオンラインで事業に参加できる環境を整える。 ・老人会や見守り活動の中で、ワクチン接種のネット予約の支援をする。 ・屋外でできる活動を推進するため、地区内の車通りや観光スポット、トイレ・ベンチの有無等を確認し、ウォーキングマップを作成する。 ・体操DVDを作成し配布 ・ネットスーパーの利用促進 ・タブレットの貸出 ・オンラインサロンの実施 <p>○時間がかかる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団地にインターネット環境を整える。(URとの調整) ・若い世代と協働で高齢者にIT活用法を教える場所、場面を支援する。 	<p>○すでに取り組んでいる・取組やすい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職が集いの場やサロン等にオンラインで参加し、介護予防を含めた相談体制確立。 ・屋内外で密にならずに集える場づくり。 ・まつど体操を作りYouTubeで流す。 ・ワクチン接種体制の工夫と整備。 <p>○時間がかかる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰でも利用できる公共施設を拠点とした、IT環境が整備されたステーション作り。 ・若い世代にITの使用法等を教えてもらう場づくり。 ・オンラインを通じて若い世代と交流できるような学校等への働きかけ。 	

※推進会議で話し合われた内容を除く

テーマ	(1) 地域で起きている問題と課題		(2) 地域での対応方針	(3) 市レベルの課題		
	推進会議	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議※		推進会議	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議※	
1. 認知症	<p>○認知症の早期発見・対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽度認知症が疑われる高齢者世帯への対応。(矢切) <p>○認知症の介護者への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者を介護する男性介護者の支援。(矢切) ・認知症の人を支える家族や本人が集う場、認知症を予防するためにも社会参加の場が必要。(東部) ・認知症サポーター養成講座尾受講者が少ない。(馬橋西) <p>○周囲の見守り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が認知症の人のために何ができるのかが分からない。(東部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方の理解。対応の啓発(個 19.20.32.58) ・認知症の相談先がまだ十分には知られていない(個 23) ・支援者も、若年性認知症に関する知識・経験が不足している。(個 23) ・若年性認知症の方の日中活動の場の拡充(個 36) ・認知症独居高齢者が生活するのは困難(個 43) ・本人、家族が困っておらず周りの支援者が困っている事がある。同居をしても本人に関わろうとしない家族が多い。(個 54) 	連携強化	<p>○すでに取り組んでいる・取組やすい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括に早期相談を促しながら資源につなげる ・情報提供 ・病院・薬局に認知症サポーター養成講座のチラシ配布 <p>○時間がかかる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見守りが必要な場合に各機関で家族の了承を得ながら情報共有等 	<p>○すでに取り組んでいる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座とまちっこプロジェクトとのコラボレーション企画 <p>○時間がかかる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集いの場に対する助成。 	
2. 介護予防		<ul style="list-style-type: none"> ・インフォーマルが主体で行う運動の場。(自 6) ・ZOOMなどを活用して、オンラインで運動できるような機会を増やす。(自 12) ・身近な場所に集いの場があれば、そこに通う事を目標にしたリハビリや歩行器使用への動機づけにつながるのではないか(自 14) 	取組検討		<p>○時間がかかる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域でのインフォーマルな運動の場の増加 ・オンラインを活用した運動機会の確保 ・身近な場所(徒歩圏内)での通いの場の増加 	

※推進会議で話し合われた内容を除く

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)地域での対応方針	(3)市レベルの課題		
	推進会議	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議*		推進会議	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議*	
3. 多分野・地域 共生	<p>○早期発見・把握、介入、見守り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8050問題の発見・介入が遅れがちである。(明2西) ・8050問題における医療・介護・縦割り行政組織間の連携を高める必要がある。(明2西) ・精神疾患やひきこもっている若い世代について、地域住民の理解と協力を得ることが困難。(明2西) ・複合的な問題を抱えた世帯への支援の増加。(小金原) ・地域のつながりが希薄。(本庁) 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害を負った若年の人達が、地域で活躍できる場や外部活動の機会が増えると良い。そのような情報や活動が高齢者向けのものより圧倒的に少ない。(自17) ・身体の不自由な人達が安全に生活できるよう、認知症サポーター養成講座のように専門職が学校で講演する機会が持てると良い。(自18) ・ごみ屋敷の対策が進んでいない。(個8.11.12.) 	実態把握	<p>○取組やすい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町会、民生委員、包括が協力しての実態把握調査。 		
			普及啓発	<p>○すでに取り組んでいる・取組やすい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネ・民生委員向けの研修・勉強会を実施する。 	<p>○時間がかかる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市のパートナー講座(出前講座)に8050問題を追加し、市民への啓発機会を増加。 	
			連携強化	<p>○時間がかかる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動販売車を一定の場に誘致し、買い物を通じた交流の機会をつくる。 ・買い物支援のボランティアの育成。 	<p>○すでに取り組んでいる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所内関係課及び保健所との連携強化による、個別ケースカンファレンスへの参加促進。 	
			取組検討	<p>○時間がかかる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域共生について理解を深め、支え手を増やす。 ・みんなが地域について話せる場所を作る。 	<p>○時間がかかる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりをコーディネートする人材やサポートするボランティアの育成。 	<p>○時間がかかる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要援護高齢者であっても社会で活躍できる場の創出。 ・障害を負った若年者が、地域で活躍できる場や外部活動の機会の創出。 ・身体の不自由な人達が安全に生活できるよう、専門職が市民向けに講習する機会の創出。
4. 国際		<ul style="list-style-type: none"> ・外国人高齢者の孤立を防ぐ為、同じ国同士集える場が必要。(個41) ・地域内で日本語教室なく、外国語通訳できるボランティアが必要。(個41) 				
5. ペット		<ul style="list-style-type: none"> ・猫の多頭飼育崩壊(個8) 				

*推進会議で話し合われた内容を除く

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)地域での対応方針	(3)市レベルの課題		
	推進会議	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議*		推進会議	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議*	
6. 生活支援	○買い物支援 ・買い物に関する情報をはじめ、情報へのアクセスが難しい。(本庁) ・買い物手段の選択肢が少ない。(本庁) ○つながりの希薄化 ・地域のつながりが希薄。(本庁)	・自動車を利用しなくても通える範囲で、趣味活動の場や買い物の場が必要。また自動車に変わる公共移動手段又は地域の移動支援が必要。(自4) ・散歩の付き添い等の支援をしてくれるようなインフォーマルな資源の不足。(個9) ・緊急通報装置等の有料システムは拒まれることもあり、無償サービスの拡充が必要。(個55)	取組検討	○時間がかかる ・現状来ている移動販売の拡充を図る。 ・移動販売車を一定の場に誘致し、買い物を通じた交流の機会をつくる。 ・買い物支援のボランティアの育成。	○時間がかかる ・移動販売車を地域に合わせた展開方法にしてもらうよう、町会から企業への働きかけの実施。	
			実態把握	○すでに取り組んでいる・取組やすい ・町会の回覧板や広報まつど、SNSなど、どの方法が有効な周知方法か把握を行う。	○すでに取り組んでいる・取組やすい ・町会、民生委員、包括が協力し実態把握を実施。	
7. 移動支援		・介護サービス利用以外での安全な外出手段や支援体制が乏しい。(個14.61)				
8. 居場所づくり	○認知症の人や家族の居場所 ・認知症の本人や家族が集う場、認知症を予防するために社会と繋がる居場所が必要。(東部) ・認知症の人の見守りや居場所づくりの推進。(馬橋) ・通いの場や患者会等も地区単位にない。(馬橋) ○つながり希薄化・交流参加の場 ・コロナ禍により、地域での活動が自粛となり、居場所作りがしづらい実情がある。地域での繋がり希薄化、居場所喪失による孤立している方がいる。その為、新たな交流・参加できる環境を整備していく必要がある。(明1)	・高齢者がもつ特殊技能等を活かして活躍できる場を見つけることが困難。(自1) ・コロナ禍でなかなかできないが、会食などの機会をもち、孤食にならない対策が必要。(自3) ・認知症の同居家族がいる場合の、利用者と家族への支援について(自10) ・一つのサービスに固執し本当に必要な支援を見落とししているのではないか。(自11)	取組検討	○すでに取り組んでいる・取組やすい ・民生委員や意欲のある担い手による居場所づくり。 ・リアルな活動を行う際、感染対策には十分注意することが重要。 ・随時地域ニーズを把握しながら、開催方法を変更して活動を再開している。 ・オンラインによる集いの場開催に向け、オンラインの知識習得、環境の整備を行っている。 ○時間がかかる ・声を掛け合える地域づくり、住民教育が必要。 ・公園や休日のデイサービス、大型ショッピングモールなどが使える可能性がある。 ・運営にかかる費用は、参加費を徴収するか、無料が好ましい。既存の行政の支援施策を活用していく。 ・居場所づくりを含め、コロナ禍の時間を利用した、町会単位での災害時等の対応の仕組み作り。	○取組やすい ・認知症サポーター養成講座を医師会のまちっこプロジェクトと協働 ・専門職が集いの場やサロン等にオンラインで参加し、介護予防の視点を見据えた相談体制の確立。 ○時間がかかる ・集いの場等の開催に対する助成。 ・誰でも利用できる、公共施設を拠点とした、IT環境が整備されたステーション作り。 ・大学等、若い世代に活躍してもらう仕組み作り。	○時間がかかる ・個食を減らし、楽しい食の機会の提供。 ・オンラインを活用した交流の促進。 ・近隣で気軽に集える居場所づくり。 ・要援護高齢者であっても社会で活躍できる場の創出。

*推進会議で話し合われた内容を除く

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)地域での対応方針	(3)市レベルの課題	
	推進会議	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議*		推進会議	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議*
9. 見守り	<p>○認知症の介護者への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症高齢者を介護する男性介護者の支援が必要。(矢切) 認知症の人を支える家族や本人が集う場、認知症を予防するためにも社会参加の場が必要。(東部) <p>○認知症の早期発見</p> <ul style="list-style-type: none"> 軽度認知症が疑われる高齢者世帯への対応が必要。(矢切) 近隣住人の見守り(雨戸の開け閉め等)での情報収集が必要。 相談窓口の啓発や周知。地域ケア会議の情報共有方法について(馬橋) 	<ul style="list-style-type: none"> 独居高齢者にとって近所の人達との関係維持は大切なので、地域の見守り支援体制が整うと良い。 	連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ○すでに取り組んでいる・取組やすい 町会や民生委員等の関係機関の連携。 	
			取組検討	<ul style="list-style-type: none"> ○すでに取り組んでいる・取組やすい 他地域包括で行っているケア会議ニュース等の発行の実施。 ○時間がかかる 地域サテライトとしての相談コーナーを設ける。 	
			普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ○すでに取り組んでいる・取組やすい 町会や民生委員等のお声掛けの工夫や認知症の方に対する理解の普及啓発。 地域行事が再開された際に出張包括等の周知。 	<ul style="list-style-type: none"> ○すでに取り組んでいる 市のホームページでの包括支援センターの周知。
10. 災害		<ul style="list-style-type: none"> 要介護者の災害時の備えができていない。町会や包括・ケアマネ、介護事業所の連携が必要。(個5) エレベーターがないマンションの高齢化は介護や災害時の課題でもある(個50) 			
11. 医療・介護連携	<p>○オンライン等を活用した面会・退院指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 入院中に面会制限がある為、手技の指導が行いにくい。(新松戸) 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者にとって身近な人の死をどう受け入れていくのかは地域全体にとっても課題となりうる。(自2) 居宅療養管理指導(薬剤師)対応できる薬局を増やし、気楽に服薬について相談できる環境を作る(自13) 	普及啓発		<ul style="list-style-type: none"> ○すでに取り組んでいる 人生会議を含め、自分自身の死の迎え方を考える機会の普及
			取組検討	<ul style="list-style-type: none"> ○すでに取り組んでいる 退院前のカンファを面会方式以外での実施 ZOOM等の活用 包括等も利用者や事業所に向けてオンライン活用の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○時間がかかる 各病院にオンラインの活用の提案
12. 成年後見		<ul style="list-style-type: none"> 独居高齢者の意思決定が困難(個4.25) 			
13. 消費者被害					
14. 地域包括ケアシステム					

*推進会議で話し合われた内容を除く